PART1　まし

まし

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	まし							特殊型

【意味】

① **反実仮想**（もしAならばBだろうに）
② **ためらいの意志**（～ようかしら・～たらよいだろう）
③ 仮想（～ならよかった）
④ 推量（～だろう）

★〈意味の見分け方〉

①　反実仮想

A ｛**せ**／「　　」／「　　」／「　　」形｝ ば B **まし**

※「～**せ**ば～まし」の「**せ**」は「　　　」の助動詞「　　」の「　　　」形

（例）「やがてかけこも**らましか**ば、口惜しから**まし**。」
（すぐに掛け金をかけて部屋の中にこもった　　　、残念だった　　　。）

★事実は？「　　　」⇐

②　**ためらいの意志**

「　　　」＋〜**まし**

（例）これになにを書か**まし**。

③　仮想

（例）見る人もなき山里の桜花ほかの散りなむ後ぞ咲か**まし**

④　推量

（例）花やこよひの主（あるじ）なら**まし**

問十　「見し人の松の千年に見〔まし〕ば遠く悲しき別れせましや」の〔まし〕部分を適切な形に活用させよ。

問十一　「いかにせまし。」を現代語訳せよ。

問十二　「名残なく燃ゆと知りせば皮衣思ひのほかにおきて見ましを」の傍線部の文法的意味を答えよ。

問十三　「居まし」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ア行上一段活用の動詞＋反実仮想の助動詞
イ　ア行上一段活用の動詞＋意志の助動詞
ウ　ワ行上一段活用の動詞＋反実仮想の助動詞
エ　ワ行上一段活用の動詞＋意志の助動詞

問十四　空欄に入る語として最も適当なものを、次の中から選べ。

「我、来ざらましかば、尼君の臨終はかくはなから［　　］。」

ア　む　　イ　ず　　ウ　じ　　エ　まし　　オ　ざり

問十五　「例の寸法にて立ちたらましかば、早く負けなまし。」の傍線部の文法的説明を答えよ。活用のある場合は、品詞、終止形、問題文中での活用形名、意味の順に記せ。

第13講　PART1　確認問題

①「わづらはしげに思ひまとはす気色(けしき)見えましかば、…」の傍線部の動詞の活用の種類と活用形の組み合わせとして正しいものを次の中から選べ。

ア　マ行上一段活用・連用形　　イ　マ行上一段活用・未然形
ウ　ヤ行下二段活用・未然形　　エ　ヤ行下二段活用・連体形

②「おほけなき心のなからましかば、ましてめでたく見えましと…」の傍線部の口語訳として正しいものを、次の中から選べ。

ア　分不相応な心がなかったので、いっそうすばらしく見え
イ　分不相応な心がなかったならば、いっそうすばらしく見えただろうに
ウ　分不相応な心がなかったので、いっそうすばらしく見えたのだろう
エ　分不相応な心がなかったならば、いっそうすばらしく見えたにちがいなく

③「これになにを書かまし。」の傍線部と同じ意味で口語訳できるものを次の中から選べ。

ア　わが身一つならば、安らかならましを、…
イ　あはれ、かれもいづちやらまし。
ウ　鏡に色・形あらましかば、うつらざらまし。
エ　行き暮れて木(こ)の下陰を宿とせば花や今宵(こよひ)のあるじならまし

④「思ふこと心にかなふ身なりきば秋の別れを深く知らまし」の傍線部a・bを反実仮想の意味になるように適切な形に直したものの組み合わせを、次の中からそれぞれ選べ。

ア　a　する　b　ましか
イ　a　し　b　ましか
ウ　a　す　b　まし
エ　a　せ　b　まし
オ　a　すれ　b　ましか
カ　a　せよ　b　まし

⑤「かなたの庭に、大きなる柑子(かうじ)の木の、枝もたわわになりたるが、まはりをきびしく囲ひたりしこそ、少しことさめて、この木なからましかば［a］と覚えしか。」の空欄aに省略されている語を補うとしたら、どのようになるか。次の中から選べ。

ア　よし
イ　よけれ
ウ　よからまし
エ　よかりけり

第13講　PART1　解答

問十　ましか　※文法的には「ませ」でも間違いではありませんが、和歌の音の数で「ましか」を正答とします。

問十一　どのようにしようかしら〔どのようにしたらよいだろう〕。

問十二　反実仮想

問十三　ウ

問十四　エ

問十五　助動詞・まし・未然形・反実仮想

第13講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①「ましか」は活用語の未然形に接続する。未然形が「見え」となるのは、ヤ行下二段活用動詞の「見ゆ」である。よって、正解はウ。

②「Aましかば Bまし」の形は、反実仮想の用法。「もしAならばBだろうに」と訳す。よって、イが正解。

③反実仮想の形をとっていないイを選ぶ。ためらいの意志「…ようかしら」と訳す。よって、イが正解。

④反実仮想は「〜せば〜まし」の形。過去の助動詞「き」を未然形「せ」とし、末部の「まし」は終止形とする。よって、正解はエ。

⑤「この木なからましかばと覚えしか」は「もしこの木がなければと思った」と口語訳できる。反実仮想「もしAならばBだろうに」のB以降が省略された形なので、「AましかばBまし」の形にすることができる。よって、ウが正解。

〔解答〕

①ウ　②イ　③イ　④エ　⑤ウ